

ΕΙΚΩΝ ΤΟΥ ΘΕΟΥ

アイコン トー セオー

知っておきたいキリスト教のことば (44)

神の似姿 かみのにすがた

「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。」(創世記 1 章 27 節)

人間は神さまのかたち(像)を継承して創造されたと、聖書は書きます。この神のかたち(image of God)と、タイトルにある神の似姿(likeness of God)とは同義で語られることもありますし、区別して考えられることもあります。

右に挙げている聖句(コリントの信徒への手紙二 4 章 4 節)においても、新共同訳聖書やフランシスコ会訳では「神の似姿」となっているところが、「神のかたち」、「神の姿」、「神の像」と、日本語の聖書の中でも様々な訳が用いられています。

初代教父の時代には、神のかたちと神の似姿とは区別されて考えられていました。アダムが罪を犯し、人間が本来保持していた神の似姿が崩れてしまったと考えたわけです。その背後には、神の似姿、つまり神さまにそれだけ似ているのであれば、罪を犯すはずがないと考えたからかもしれません。

その反面、神のかたちは罪を犯した後も維持され続けていると考えられていました。だから神のかたちと似姿とは違うものとされていたのです。

わたしたちにとって、上記のような議論はあまり意味のないものかもしれません。しかし、わたしたちはそもそもどのようにして、神さまにつくられたのかを考えることは、とても大切なことだと思います。

神さまはわたしたちを造られた時に、祝福されました。それはご自分の似姿であるわたしたちを、とても愛されたからです。わたしたちは「神の似姿」として、その愛に応える者となりましょう。

次回は「ガリラヤ」です。お楽しみに。



「システーナ礼拝堂のフレスコ画」

ミケランジェロ・ブオナローティ

(1475~1564 年)

この世の神が、信じようとはしないこの人々の心の目をくらまし、神の似姿であるキリストの栄光に関する福音の光が見えないようにしたのです。

(コリントの信徒への手紙二 4 章 4 節)

